

# 日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO.114

令和5年(2023年)

令和5年度日本庭園学会関西大会  
開催案内

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
東京農工大学 地域環境科学部  
造園科学科 庭園技法材料科学研究室  
TEL(03)-5477-2428(粟野 隆 理事)  
<http://www.jgarden1992.jp/index.html>

関西大会テーマ：「旧彦根藩の大名庭園と世界文化遺産登録 ～再生と未来～」

令和5年度の日本庭園学会全国大会は「江戸の大名庭園～再生と未来～」のテーマで開催されました。関西大会ではこれに引き続き、関西の大名庭園を代表するひとつである滋賀県彦根市に所在する旧彦根藩の大名庭園にスポットを当て、現地検討会ならびに公開シンポジウムを企画しました。現地検討会・公開シンポジウムでは、彦根市担当者や文化財庭園保存技術者から彦根城の世界遺産登録に向けての取り組みの現状や、玄宮園の保存管理・修理事業についてご報告いただき、彦根城を含み大名庭園の再生と未来についてディスカッションを行ないます。研究発表会では5件の発表が行われます。ふるってご参加くださいますようお願いいたします。

なお、関西大会は対面にて実施いたしますが、研究発表会ならびに公開シンポジウムは Web 会議システム (Zoom) によるリモート参加も可能です。申し込みいただいた方に事前に ID・パスワードをお知らせいたしますので下記の要領に従って事前にお申し込みください。

## 大会概要

- ◆主催 日本庭園学会
- ◆後援 彦根市
- ◆日程 令和5年11月18日(土)・19日(日)
- ◆概要

### 【1日目】現地のみ

令和5年11月18日(土)

現地検討会(10:00～17:00)

集合場所：開国記念館

(彦根城佐和口多聞櫓)

午前：名勝玄宮楽々園

所在地：滋賀県彦根市金亀町3

アクセス：JR彦根駅から徒歩約20分



玄宮園において、近年の護岸修理事業や植栽整備事業について整備事業担当者よりご案内いたします。また、修理が竣工した楽々園の建造物や今後修理予定である玄宮園内の臨池閣の見学を行います。

午後①：彦根城

\*彦根城博物館は見学に含まれておりません。

所在地：滋賀県彦根市金亀町3

アクセス：JR彦根駅から徒歩約20分

午後②：旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園

所在地：彦根市松原町515

アクセス：JR彦根駅から

徒歩約30分



\*見学先、見学順は変更になることがあります。

【2日目】現地及びリモート併用

令和5年11月19日(日)

研究発表会、公開シンポジウム

10:00～15:30(予定)

会場：彦根勤労福祉会館大ホール

所在地：彦根市大東町4-28

アクセス：JR彦根駅より徒歩5分



午前：公開シンポジウム

「旧彦根藩の大名庭園と世界文化遺産登録  
～再生と未来～」

午後：研究発表会

◆参加費(入園料含む)

1日目：学会員：1,000円、非学会員：2,000円、  
学生：無料

2日目：無料

但し、希望者は資料代(『研究発表要旨  
集および公開シンポジウム資料』)として  
1,000円

◆関西大会参加の申し込み

[参加申し込み先]

日本庭園学会関西支部事務局

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付

Fax: 075-791-9342

Mail: [naka@kua.kyoto-art.ac.jp](mailto:naka@kua.kyoto-art.ac.jp)

[申し込みについての諸注意]

- ・参加者の人数制限はありません。
- ・申込期限：令和5年11月11日(土)12:00\*  
\*当日参加も受け付けますが、準備の都合上、  
極力事前に参加申し込みをお願いいたします。  
なお、リモート参加希望の方は当日受付は  
いたしかねますので必ず期限までにお申し  
込みをお願いいたします。
- ・申込みは、ハガキ、ファクシミリ、メールの  
いずれかにてお願いします。電話でのお申込みは  
担当者が常駐しておりませんのでご遠慮願  
います。お申し込みの際には次の事項をお知  
らせ願います。

- ①氏名、所属、住所、当日連絡可能な携帯電話番号
- ②会員・非会員の別  
(学生の方はその旨もお知らせください)
- ③参加プログラム(A:現地検討会、B:公開シン  
ポジウム、C:研究発表会)
- ④資料希望の有無
- ⑤リモート参加希望者のみ、「リモート参加希望」と  
記し、連絡先メールアドレスを明記してください。  
11月18日(土)までに、Zoomにログイン  
するためのIDとパスワードをお知らせいた  
します。なお、万が一、Wi-Fi環境により通  
信状態が芳しくない場合が生じた場合はご容  
赦ください。

[参加費についての諸注意]

- ・参加費は当日徴収いたします。極力、つり銭の  
要らないようにご協力をお願いいたします。  
但し、研究発表会及び公開シンポジウムへリ  
モート参加の方で資料を希望される方は下記  
要領にて資料代をお振込み願います。
- ・リモート参加希望で資料希望者は申込み事項  
④に「資料希望」と記し、11月11日までに代  
金1,000円の振り込みをお願いいたします。

<リモート参加者 資料代振込先(郵便振替)>

加入者名：日本庭園学会

口座番号：00140-3-659842

## プログラム

## 【1日目】

令和5年11月18日(土)

現地検討会(10:00～16:00)

進行：日本庭園学会関西支部長 仲隆裕

案内・解説：三尾次郎氏

(彦根市文化財課)

片石高幸氏(予定)

(文化財庭園保存技術者協議会正会員)

- 09:30 受付開始  
集合場所：開国記念館  
(彦根城佐和口多聞櫓)入口階段前
- 10:00 開会
- 10:00～10:15 開国記念館にて事前レクチャーの後、徒歩にて玄宮楽々園に移動
- 10:30～11:40 名勝玄宮楽々園のうち、玄宮園にて園池護岸や橋、植栽など近年の庭園保存修理について解説します。また、主要視点場の一つであり今後修理が予定されている臨池閣から玄宮園を展望し、近代における玄宮園の改修整備の履歴を検証し、今後の整備のあり方について意見交換を行います。
- 11:40～12:00 楽々園に移動し、これまでの庭園ならびに建造物修理の経緯と今後の修理予定箇所について解説します。  
一各自、昼食休憩一
- 13:30 午後の部、再集合  
集合場所：彦根城  
表門券売所前
- 13:30～14:30 彦根城の石垣修理、植栽管理について解説を受けながら天守まで見学します。その後、名勝旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園まで徒歩にて移動
- 15:00～16:00 名勝旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園(特別公開中)の見学
- 16:00 現地にて解散

## 【2日目】

令和5年11月19日(日)

公開シンポジウム(10:00～12:00)

研究発表会(13:30～15:30)

- 09:30 受付開始  
会場：彦根勤労福祉会館大ホール
- 09:50 Zoom参加者の入室開始
- 10:00 公開シンポジウム  
「旧彦根藩の大名庭園と世界文化遺産登録～再生と未来～」
- 10:00～10:15 開会挨拶、シンポジウム趣旨説明、登壇者紹介
- 10:15～10:55 講演1：彦根城の世界遺産登録と彦根藩主の庭園(仮)  
三尾次郎氏  
(彦根市観光文化戦略部彦根城世界遺産登録推進室)
- 10:55～11:35 講演2：彦根市名勝庭園管理アドバイザーと名勝玄宮楽々園の植栽整備  
片石高幸氏  
(文化財庭園保存技術者協議会正会員/京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター主任研究員)
- 11:35～12:00 質疑応答・ディスカッション  
一各自、昼食休憩/理事会一
- 13:30 研究発表会開会
- 13:35～14:05 発表1
- 14:05～14:15 発表2
- 14:15～14:35 発表3  
小休止
- 14:45～15:05 発表4
- 15:05～15:25 発表5
- 15:25～15:30 閉会挨拶

## 研究発表の概要

### 発表 1

#### 「石工、井亀泉・酒井八右衛門のこと」

加藤元信

(文京区役所文化資源担当室 文京ふるさと歴史館)

<概要>

江戸時代～近代期にかけて、江戸・東京の寺社地などには“御碑銘彫刻師”などの異名で呼ばれた複数の名石工が存在した。

駒込肴町（現在の東京都文京区向丘）の地主でもあった井亀泉、酒井八右衛門の遺した石碑や石造物（鳥居・狛犬・台座など）について紹介すると共に、江戸・東京を超えて、遠くは関西、北陸、東北に遺された、その足跡について考察するものである。

### 発表 2

#### 「浜離宮恩賜庭園新銭座鴨場における角落し堰による汐入の池の管理手法の考察」

菊池正芳

(公益財団法人東京都慰霊協会)

<概要>

都立浜離宮恩賜庭園は江戸時代に作庭された池泉回遊式庭園の典型的な大名庭園であり、臨海部に立地する特徴を生かした汐入の池（横堀、潮入りの池）と2つの鴨池を有している。汐入の池の流出入は主に電動水門の開閉により行われているが、新銭座鴨場は人力操作による角落し堰により海水の流出入を行う構造となっている。しかし、現在は角落し堰は使用しておらず、海水は干満差に応じて流出入している状態であった。そこで、角落し堰を修復して人力による海水の流出入の手法を実験することによって、江戸時代の汐入の池の管理手法を明らかにしていく。

### 発表 3

#### 「発掘庭園の保存と活用－朝倉館跡庭園特別鑑賞会のその後」

藤田若菜

(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館)

<概要>

平成 30 年度日本庭園学会全国大会の公開

シンポジウムにおいて、一乗谷の事例報告を行い、庭園遺構の保存を図るとともに、戦国期の鑑賞を想像させることを目的とした「朝倉館跡庭園特別鑑賞会」の取組を報告した。その際に今後の展望として、庭園遺構の恒常的な保存策および、新博物館（報告当時は開館予定・昨年 10 月開館）と遺跡との一体的な活用に言及した。遺跡における取組は途中段階ではあるが、進捗を報告するとともに、その効果を考察する。

### 発表 4

#### 「大阪府島本町所在・水無瀬殿保存問題の顛末と課題」

大澤伸啓

(立正大学非常勤講師)

<概要>

本問題に関しては、島本町に対して 2020 年より水無瀬殿の保存と活用を図るよう緊急提言をし、区画整理事業に伴う越谷遺跡の発掘調査への提言等を行ってきた。不本意なことに、区画整理事業は進めども遺跡の解明は進んでおらず、保存に対する手立ては全く講ぜられていない。本発表では水無瀬殿保存問題に関する顛末を報告し、この問題から見えてきた遺跡保存に対する課題と、水無瀬殿保護への課題を共有することを目的としたい。

### 発表 5

#### 「大原来迎院・旧善逝院庭園跡の調査（仮）」

マレス・エマニュエル、川畑和也、久瀬夏鈴、柴川悠、橋爪香里、松原愛奈

(京都産業大学文化学部)

<概要>

2022 年より、京都産業大学文化学部マレス・エマニュエル准教授のゼミナールに所属する学生は、京都産業大学日本文化研究所 鈴木久男客員研究員と共に、京都の洛北、大原の来迎院に残る旧善逝院庭園跡の調査を行なっている。

今回の発表では実測（平板測量）と発掘調査の成果を紹介しながら、150 年間以上地中に埋もれ、忘れられていた大原の歴史的な庭園跡に脚光を当てる。

## 日本庭園学会現地検討会 2023 のご案内

## 真壁城跡現地視察会の概要

茨城県桜川市の国指定史跡真壁城跡の中城には庭園遺構が見つかっており、現在発掘調査が実施されている。今回は、整備に向けての確認調査ということもあり、日本庭園学会主催の現地視察会を企画した。現地討議の場を含め、参加者との情報交換の場（交流会）も設ける予定です。多くの方々の参加を期待します。

史跡真壁城跡中城庭園  
発掘現場視察会の詳細

- 日 時：令和5年12月7日（木）  
13:45 現地集合、16:30 現地解散
- 参加費：会員無料。学会員以外500円
- 交流会：つくば駅周辺にて17:30頃より開始。  
2時間程度を予定。交流会参加費は4,000円程度
- 申込期限：令和5年11月27日（月）締切
- 申込方法：参加希望者は以下の必要事項を明記の上、日本庭園学会事務局まで申込みください。グループでの参加・申込みも可能です。
- ①参加者氏名（全員分）
  - ②代表者連絡先として、メールアドレス及び当日連絡可能な携帯番号
  - ③参加者会員種別  
学会員及び学会員以外の各人数
  - ④送迎（つくば駅～現地の往復）希望者全員の氏名
  - ⑤交流会参加者全員の氏名

申込先：日本庭園学会事務局  
**teiengakkai@gmail.com**

交通：＜送迎バスを利用＞  
桜川市のご厚意により、送迎バスの提供があります。各便直通で下記の通り運行されます。  
【往路】13:00  
つくばエクスプレス「つくば駅」から「真壁城跡」まで  
【復路】解散後  
「真壁城跡」からつくばエクスプレス「つくば駅」まで

＜公共交通機関を利用＞

【往路】最寄り駅のJR水戸線「岩瀬駅」下車。12:52岩瀬駅発・桜川市バス「ヤマザクラGO」の「筑波山口行き」に乗車し、「真壁城跡」バス停にて下車（13:26着予定）、徒歩5分

【復路】真壁城跡バス停から16:35又は17:10発の桜川市バス「ヤマザクラGO」の「岩瀬庁舎行き」に乗車し、「岩瀬駅」にて下車（17:02又は17:54着予定）。

## 真壁城跡の概要（「中世真壁氏の居城」）

平安時代末（1172年）に平長幹たけもとが真壁郡司として入部し、その一族は真壁氏を名乗った。以降、真壁氏は秋田角館へ移封となる1602年までこの地を治め、真壁城はその居城であった。真壁城は筑波山系から西へ伸びる尾根上の微高地を利用して造られた平城である。本丸を中心に巡る四重の堀と土塁などが良好な状態で残され、中世城郭の構造を知る上で貴重な史跡で、その国指定面積は12.5ヘクタールに及ぶ。

1934(昭和9)年12月18日に本丸部分の一部が県指定史跡となり、さらに1994(平成6)年10月28日に現在の範囲が国指定史跡となった。現在、市教育委員会が主体となり発掘調査と史跡公園整備事業を進めている。

(参考：桜川市「国指定史跡 真壁城跡」  
<https://www.city.sakuragawa.lg.jp/education/bunkazai/page006692.html>)

## 真壁城跡の発掘調査と整備

桜川市教育委員会では真壁城跡の発掘調査を、1981(昭和56)年:本丸、1995(平成7)年以降:二の丸・中城・外曲輪、そして今回視察対象の中城は2022年(令和4年度)より調査を進めている。整備(復元工事)の状況としては、外曲輪が完了し、続いて整備中が中城となっている。なお、今後整備予定として本丸、二の丸がある。2000・2001年(平成12年・13年度)の調査から中城中央部に池跡や石組水路などが発見され中城庭園の存在が確認された。以降年次進行で発掘調査が実施され、整備に向けての確認調査が継続され現在に至っている。

(参考：桜川市「発掘調査の成果について」  
<https://www.city.sakuragawa.lg.jp/temporary/page006741.html>)

## 第18回日本庭園学会賞の募集のお知らせ

この度、日本庭園学会では、日本庭園や日本庭園に関わる研究に関する業績を顕彰するために、日本庭園学会賞を設けました。今年度は第18回の募集をおこないます。

審査の対象は、論文など学術に関すること、庭園技術や技能に関すること、庭園に関する著作等です。著作等には、映像や写真も含まれます。

応募締め切りは、令和6年2月29日（必着）です。なお、応募書類は返却しません。

この賞は会員ばかりでなく、会員の推薦する者も学会賞の対象者になりますので、庭園学の発展のために、自薦、他薦を含めまして、ぜひご応募のほどをお願いいたします。

令和5年10月  
 学術委員会委員長 佐々木 邦博

### 日本庭園学会賞 募集要項

1. (目的) 日本庭園およびそれにかかわる研究に関する業績を顕彰するため。
2. (対象者) 日本庭園学会員または学会員の推薦する者。
3. (対象)
  - 学術：庭園に関する論文で、庭園学の発展に貢献した者。
  - 技術：庭園に関する計画・設計・施工、維持管理・運営、遺跡調査、復元整備、修理等庭園技術および技能の発展に貢献した者。
  - 著作等：庭園に関する著作、映像、写真等の業績が極めて優れていると認められた者。また、各種活動により庭園学の発展に寄与した者。  
 なお、他に奨励賞を設けることができる。
4. (表彰) 総会で学会長が授与し、その内容を日本庭園学会誌に公表する。
5. (応募) 授賞対象者は学会員または学会員の推薦する者とする。推薦者は別紙に定めた「日本庭園学会賞推薦応募書」と選考に必要な資料を添えること。

#### ■応募書等の送付先：

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
 東京農業大学地域環境科学部造園科学科  
 庭園技法材料学研究室気付  
 日本庭園学会総務担当

#### ■応募の締め切り：令和6年2月29日（必着）

#### ■応募に関する問い合わせ先：

学術委員長 佐々木邦博  
 Tel & Fax 0265-73-2991

Mail [sasakikunihiro1954@yahoo.co.jp](mailto:sasakikunihiro1954@yahoo.co.jp)

\*応募用紙は、当会HPよりダウンロードして下さい。

#### 【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく  
 お願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほ  
 どよろしくお願いします。

協力者：森本・細井（植彌加藤造園株式会社）

#### 日本庭園学会 広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342